

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 049	提案機関名 農業技術センター北相地区事務所
要望問題名 相模原のヤマトイモにおける丸種いも等を利用した栽培方法の検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 現在、相模原市におけるヤマトイモ生産は、種イモ用に栽培された専用のものを他県から購入して、冬の間種イモを分割して土中で保管し、分割したイモのそれぞれから不定芽が発生してから定植する栽培法が主流となっている。しかし、種イモ生産を行っている埼玉県の産地では高齢化の進行で生産基盤が脆弱になっており、良質な種イモの確保が難しい状況になりつつある。 そこで、山梨県で開発された種イモを小切片に分割して、翌年度用の種イモを生産する「丸種イモ」の生産法を現地に導入したが、栽培者によって生産性が安定せず、形や大きさが不十分になるケースが多い。そこで、丸種イモ等（丸種イモ以外に小芋やむかごの利用等も含む）を用いて、安定してヤマトイモの成イモまで生産できる方法の開発をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考 本所では気候的な特徴が異なることから、農業技術センター北相地区事務所研究課での対応を検討いただきたい。	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名 農業技術センター	担当部所 北相地区事務所研究課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 2. 消費者ニーズに応える高品質・安定生産技術の開発 エ 北相地域における野菜類の高品質・安定生産技術の開発	
対応の内容等 上記課題の中で実施する。山梨県の事例を参考に、成イモを安定生産するための当所気象下での栽培条件と、影響する可能性がある要因を検討する。 種イモ生産に1年かかり、そのあと収穫までに1年かかる試験となるので、期間は4年～5年とする。	
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内
備考	